▼名称

カウンターショック

Defibrillator

◎扱い方

上にスライドさせ、チャージメーターがグリー゛ゾーンに来たときにタッチペンを画面から離す

心停止した患者の心肺機能を復活させる際に使用する特殊器具。心停止が発生すると自動的に画面中央にカウンターショックが出現するので、まずタッチペンを上にスライドさせてバドルを押し出す。その後、画面をタッチし続けるとチャージメーターが動くので、そのメーターが緑のゾーンまで来たときにタッチペンを画面から離そう。緑のゾーンで止まれば成功で、カウンターショックを行なう。



カウンターショックを操作しているときもバイタルは低下していく。ただし、成功すればバイタルは15回復する。

カウンターショックの手順



カウンターショックに使用するバドルが画面に表示されたら、画面上へスライドさせよう。成功すればバドルを押し出す。



チャージメーターが出現したら、画面をタッチし続けてゲージを動かそう。ゲージのスピードは難易度によって変化する。



ゲージが緑のゾーンに来たらタッチペンを画面から離し、ゲージを緑のゾーンで止めよう。成功するまで何度も行なうこと。

▼名称

心臓マッサージ

Heart massage

◎扱い方

リングが重なったときに画面をタッチする

カウンターショックを使わずに、停止した心肺機能を戻す際に行なう特殊能力。心停止が発生すると自動的に画面中央に手が出現するので、手に表示されているリングと動いているリングが重なったときに画面をタッチしよう。成功するたびに心臓を直接手でマッサージする。この処置を一定回数行なうと心拍が復活し、バイタルが10回復する。



入力に成功しても規定回数分行なう必要がある。手のグラフィックが消えるまで続けてタッチして成功させよう。

▼名称

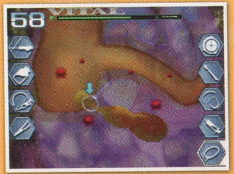
ワイヤー

Wire

◎扱い方

患部をタッチしたまま、続けてスライドさせる

臓器の一部を括る際に使用する特殊器具。使用可能な状態になると画面右下に器具アイコンが表示される。アイコン選択後は設置する位置に矢印が表示されるので、その先をタッチしたままにするとワイヤーを設置。続けてスライドさせればワイヤーの括りつけが完了となる。ちなみに、スライドさせるときはどの方向でもかまわない。



ワイヤーを括りつけるまでスライドし続けよう。途中でタッチペンを画面から離すと最初からやり直しになる。

▼名称

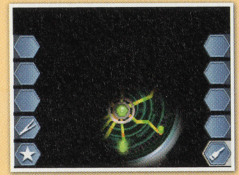
ペンライト

Penlight

◎扱い方

明かりを灯したい場所をタッチする

薄暗い術野を照らす特殊器具。暗闇になると画面右下に器具アイコンが表示される。アイコン選択後は照らしたい場所をタッチするとその周辺が明るくなり、さらにべつの場所をタッチするとその場所へ明かりが移動する。また、スライドし続けても明かりを動かすことができるため、全体の様子を見たいときは、スライドさせて確認するといい。



べつの器具を使用したあとで明かりを移動させるときは、再度ペンライトの器具アイコンを選択して移動させよう。

▼名称

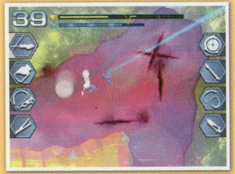
超執刀

Healing touch

◎扱い方

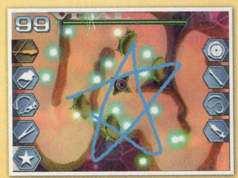
画面をタッチしたまま、五芒星を一筆書きし、タッチペンを画面から離す

手術中に一度だけ使用可能になる特殊能力。画面をタッチしたまま続けてスライドさせると水色の線が描けるので、五芒星を一筆書きし、描き切ったあとでタッチペンを画面から離そう。成功すれば超執刀が発動し、バイタルゲージの下に超執刀ゲージが出現。このゲージが消えるまで、患部の症状やギルスの動きなど、すべてがスローモーションになる。ただし、バイタルへのダメージは発生する。



すべてがゆっくり動くようになるので、患部処置がしやすくなる特殊能力。使用できないエピソードも存在する。

超執刀の手順



超執刀アイコンを選択するとアイコンが点滅する。その状態で五芒星を一筆書きしよう。始点はどこからでもかまわない。



「頂点の数」、「頂点の角度」、「直線同士の交点数」の基準があるものの、五芒星に近い形であれば入力は成功する。



超執刀を発動させると超執刀ゲージが出現（イベント発動時は表示されない）。ゲージが消えるまで効果が持続する。

連続して使えない器具

基本器具のレーザー、ヒールゼリー、メス、針と糸、注射器の５つには、連続で使用できる限度が設定されている。そのため限度まで使い続けると、ペナルティとして一定時間その器具を使えなくなってしまうのだ。器具ごとに限度に達するまでの時間は異なるが、限度にどれぐらい近づいているかは、器具アイコンの色の変化で確認することができる。術式中でも必ず確認してうまく対処したい。

■器具アイコンの変化



器具を連続で使い続けると、器具アイコンは上の流れで色が変化していき、いちばん右に達した時点で一定時間使用不可になる。手を休めると、少しずつ回復していく。